



はしかについて

神戸大学内科系講座小児科学分野
こども急性疾患学 特命助教
高藤 哲



目次

1. はしかとは
2. はしかの何が危険なのか
3. はしかの症状と経過
4. はしかの合併症
5. はしかの対策

1. はしかとは

コトバンクによると

はしか 麻疹 英名: Measles
(Paramyxovirus科Morbillivirus属)

麻疹ウイルスによる感染症。
旧伝染病予防法の届出伝染病の一つで、今日では
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する
法律で5類感染症に分類される。

はしか(麻疹)の語源

- 「はしか」の語源は「はしかい」(ちくちく・ひりひりとかゆい)に由来する。
- かつては「赤もがさ」と呼ばれ、近世の江戸時代以降にはしか、麻疹と呼ばれるようになった。

5代目将軍徳川綱吉の死因も麻疹
ではないかと言われている



はしか(麻疹)の歴史①

- 江戸時代にもはしかはたびたび大流行を繰り返し、天然痘より死亡率が高かったので、〈疱瘡(天然痘)は器量定め、麻疹(はしか)は命定め〉といわれた。
- かつて「はしかに罹って一人前」「7歳までは神の子」とは、幼児の生死は神様が握っていて、ヒトの努力が関与できる部分ではないとされていた。

はしか(麻疹)の歴史②

- 日本の歴史中で確認されている1回目の麻疹の流行は998年、藤原道長の絶頂期
- 栄花物語に「あかもがさといふもの出てきて上中下分かず病みののしる」と表現されている。
- 藤原嬉子は1025年8月3日皇子親仁(後の冷泉天皇)を出産したが、出産直前に麻疹に罹患し、出産2日後に死去(18歳)

2. はしかの何が危険なのか

- 感染力が**非常に強い**
- **有効な治療法がない**
- 感染者の**約30%が合併症**をきたし、
肺炎、脳炎など時に致死的となることがある

※世界で年間約50万人が死亡し、医療が発達している先進国でも1000人に1人が命を落とす

トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

特集

意識調査

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT・科学

ライフ

地域

北海道・東北 | 関東 | 信越・北陸 | 東海 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄

はしか患者、4人増 沖縄県内で71人に

4/23(月) 12:00配信

沖縄タイムス
OKINAWA TIMES

トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

特集

意識調査

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT・科学

ライフ

地域

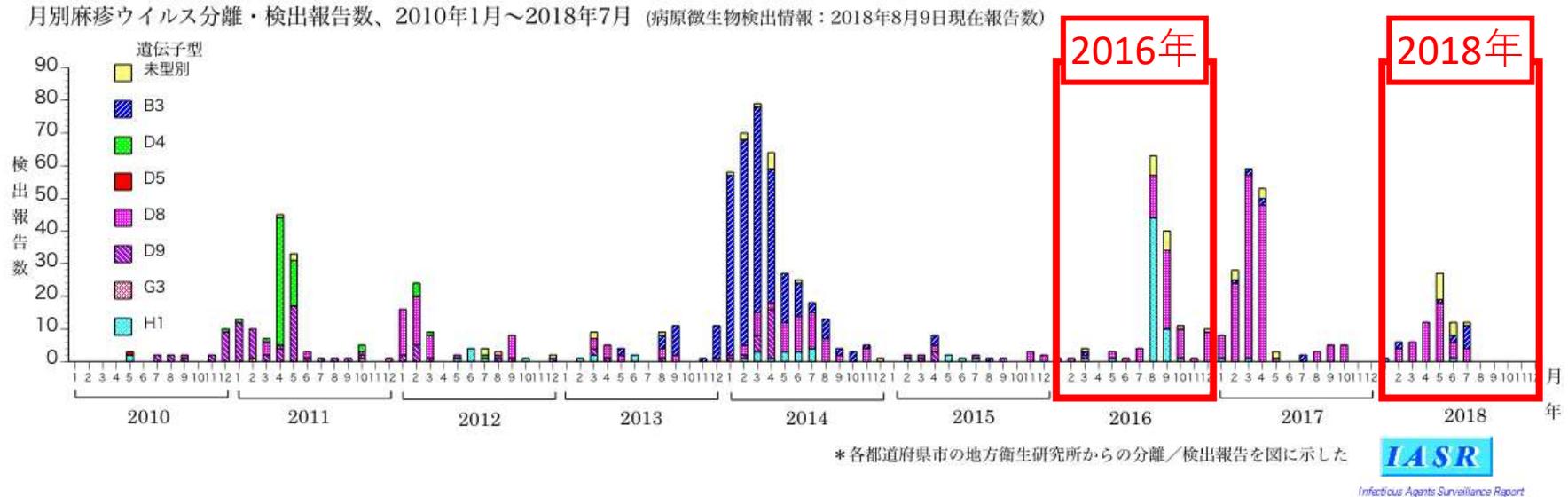
北海道・東北 | 関東 | 信越・北陸 | 東海 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄

はしか、名古屋の女性感染 沖縄旅行の男性からか

4/22(日) 10:30配信

沖縄タイムス
OKINAWA TIMES

はしかの最近の流行



■ 2016年

関西空港を中心に、空港職員33人が感染

■ 2018年3月～

沖縄観光に来た、たった1人の台湾人から
沖縄を中心に愛知、東京に感染者が拡大

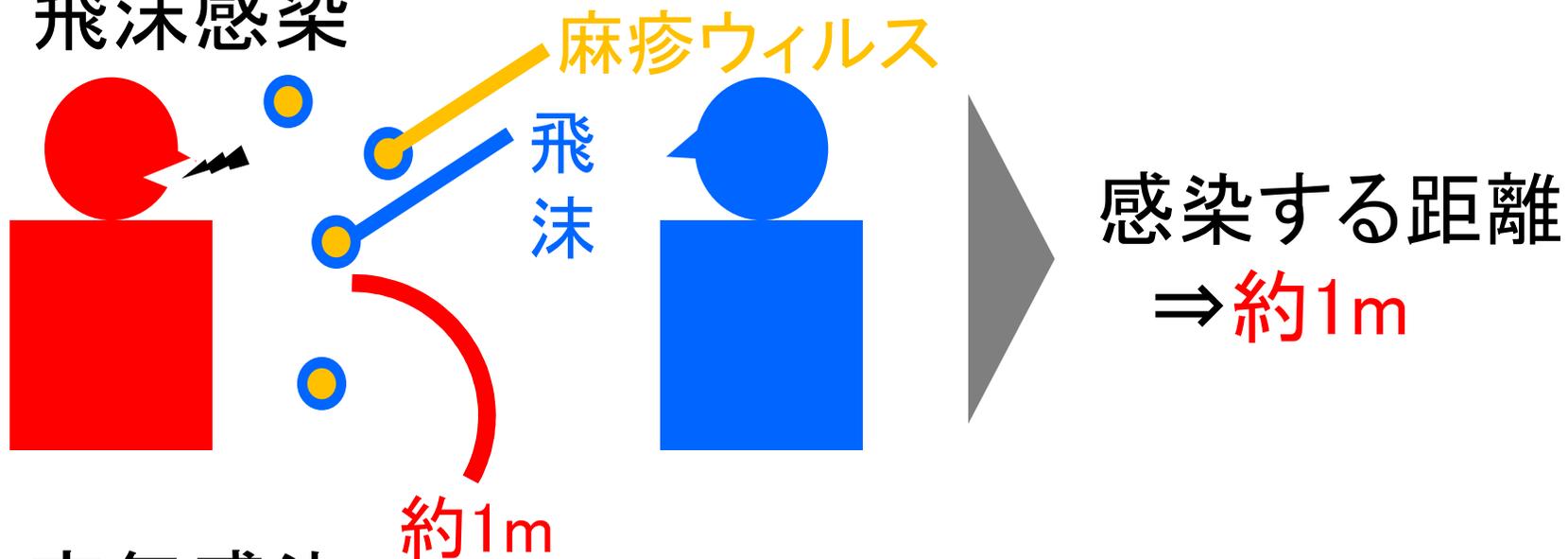
※沖縄については終息宣言(2018年6月11日)

はしかの感染力

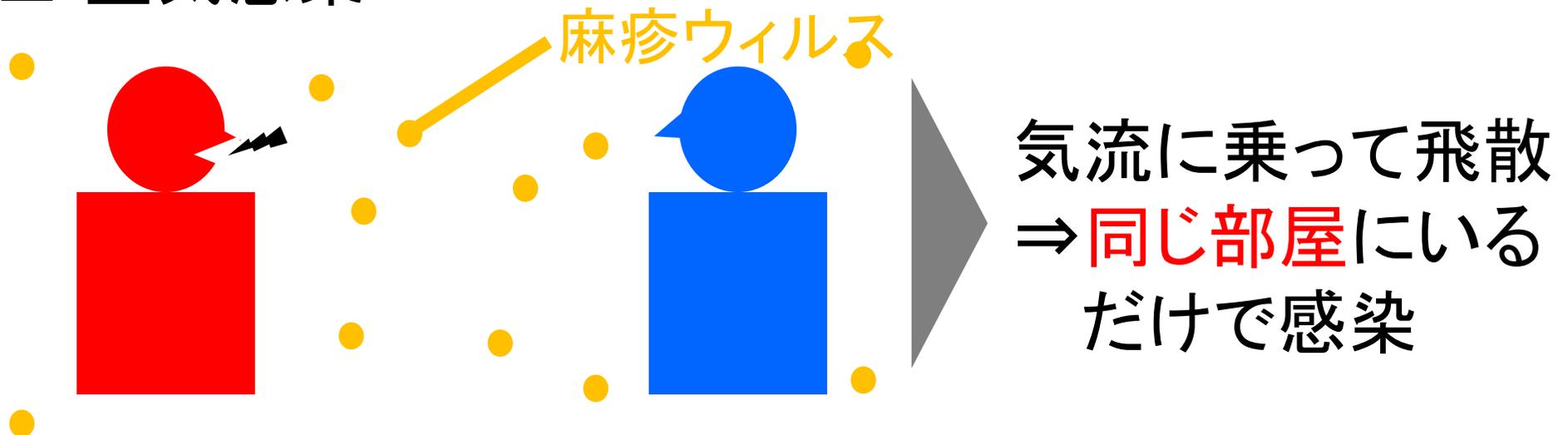
- 「麻疹ウィルス」の感染力は**非常に強力**
⇒免疫がない集団に1人の発症者がいると12－14人が感染する。(インフルエンザでは1－2人)
- 感染経路は**接触感染、飛沫感染、空気感染**
- 感染力が最も強い時期は**発疹が出る前(カタル期)**

飛沫感染と空気感染の違い

■ 飛沫感染



■ 空気感染

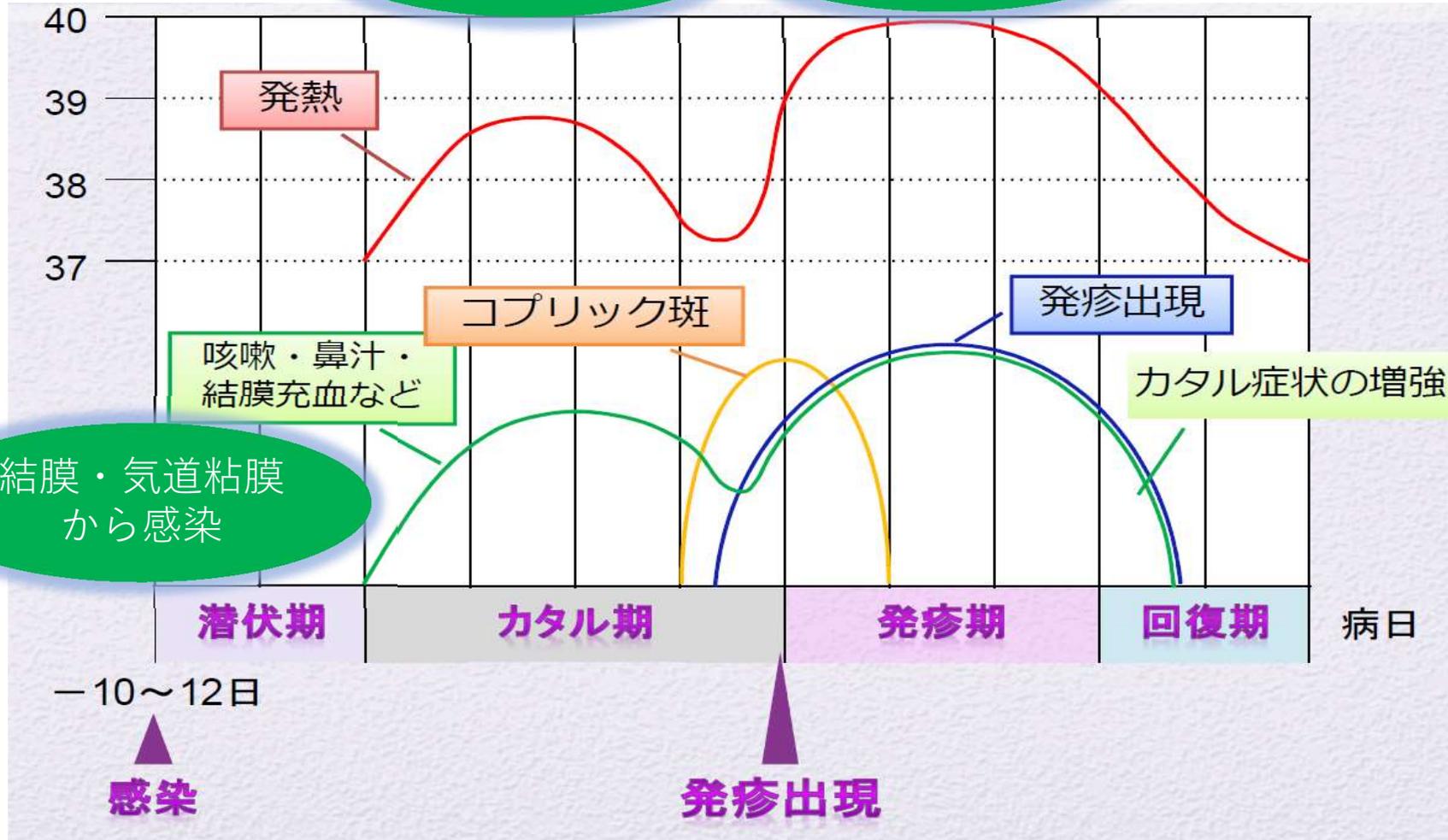


3. はしかの症状と経過

一次ウィルス
血症

二次ウィルス
血症

体温(°C)



はしかの発疹



- ・耳後部、頸部から全身へ広がる
- ・最初は**淡紅色**
徐々に皮膚面から盛り上がり、
濃紅色となって**癒合**する。
- ・色素沈着を残して治癒する

コプリック斑



- ・頬粘膜の白色小斑点
- ・カタル期の後半から発疹期の1-2日見られる
- ・診断に有用
→ただし麻疹患者でもみられないことあり

4. はしかの合併症①

- 約30%の患者が合併症を発症する。
合併症:肺炎、腸炎、中耳炎、クループ、脳炎、
角膜軟化症、亜急性硬化性全脳炎など
- 特に肺炎は合併症の約半数を占める。
- 頻度は低いが脳炎を起こすことがあり、
肺炎と脳炎は、はしかの2大死因である。

はしかの合併症②

亜急性硬化性全脳炎(SSPE)

- 約10万人に1人の割合で、はしか罹患後7－10年後発症
- 知能障害や運動障害が徐々に進行
- 発症から6－9か月で死亡する

合併症の危険が高い人

- 妊婦
- 高齢者
- 小児
- 免疫抑制状態にある人
- ビタミン欠乏状態
- 低栄養状態

妊娠中にはしかに罹患すると、約60%で妊婦または胎児に何らかの合併症をきたす

修飾麻疹

- はしかに対する不完全な免疫をもつ人がはしかに罹ると、通常と異なる経過になる。
- 潜伏期間：14－20日と長い
- カタル期の症状が軽度で、みられないことも
- コプリック斑が出ないことも
- 発疹は融合しない
- 通常は合併症がなく、期間も短く風疹と間違われることも

症状がわかりにくく、気付かない間に感染を
拡げてしまう可能性がある

5. はしかの対策

はしかの特異的な治療が存在しない



予防接種を行い、
はしかを発症させないことが大切！！

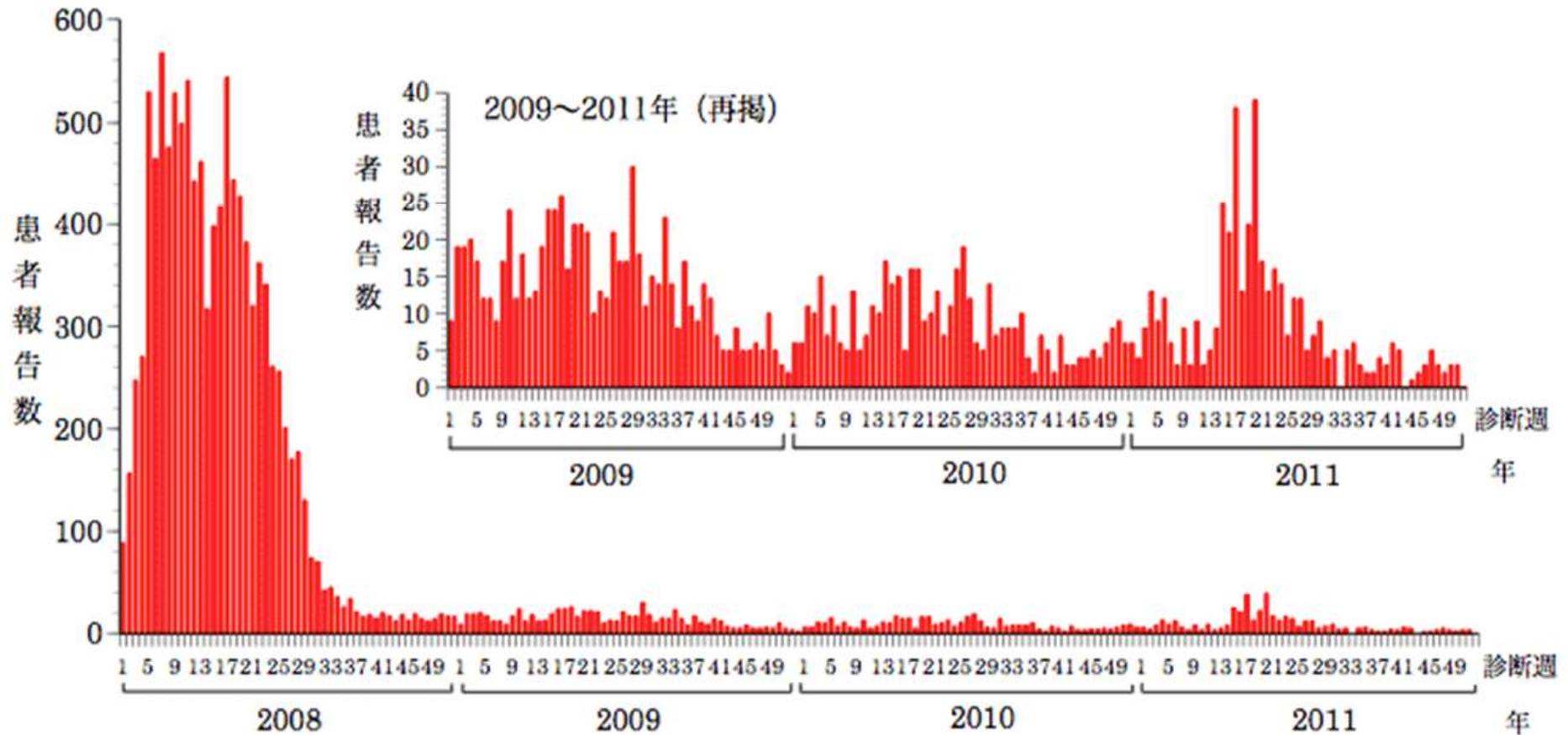
はしかとワクチンの歴史

- 1990年代までの日本では、はしかは数年毎に大規模な全国流行を繰り返していた。
- 2001年には28.6万人が罹患した。当時のワクチン接種率は1歳で50%と低く、患者の中心は1歳前後の乳児が中心であり、その多くはワクチン未接種の児であった。

→「1歳の誕生日にワクチンをプレゼント」

- これにより患者は減少した。
- 2006年からはMRワクチンの2回接種制度が始まり、年少児への対策が強化された。

図1. 週別麻疹患者報告数の推移, 2008~2011年



(感染症発生動向調査: 2012年1月5日現在報告数)

- 2008年から5年間導入した、中学1年生と高校3年生を対象とするワクチン接種が功を奏し、麻疹の患者数は減少した。
- 日本土着の麻疹ウイルス株(遺伝子型D5)の麻疹ウイルスは2010年5月を最後に国内で検出されなくなった。
- 2015年3月27日、日本はWHOから麻疹の排除状態にあると認定された。

予防接種の問題点

- はしか予防接種が普及している先進国では、母から子へ移行する抗体量が少なく、乳児期（1歳未満）の罹患率が高くなる傾向がある。
- 1歳未満の児に対する予防接種では、1歳以降の児に比べて抗体の獲得率が低い。

乳児期に接種した場合、1歳以降に
再度接種する必要がある！

予防接種の前に考えること

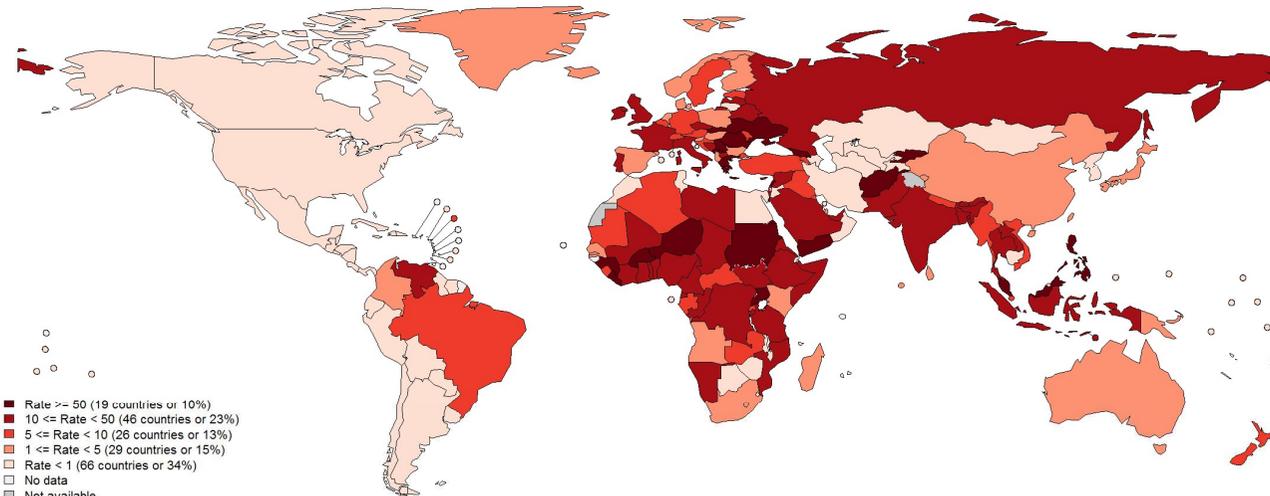
- 乳児は予防接種前にはしかにかからないことが大切
- 流行地域へ行くのは極力控える

はしかの流行地へは、1歳以降での
ワクチン接種後に行きましょう

Measles Incidence Rate per Million (12M period)



Top 10**		
Country	Cases	Rate
India	61567	46.49
Ukraine	30343	682.81
Philippines	12654	122.47
Nigeria	8529	45.86
Yemen	6574	238.32
Serbia	5694	645.57
China	4377	3.12
Indonesia	4097	15.69
DR Congo	3346	42.50
Greece	3217	287.65



Other countries with high incidence rates***		
Country	Cases	Rate
Georgia	1220	310.80
Lebanon	764	127.19
Liberia	434	94.07
Malaysia	2580	82.73
Romania	1539	77.81



Map production: World Health Organization, WHO, 2018. All rights reserved
Data source: IVB Database

Disclaimer:
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Measles cases from countries with known discrepancies between case-based and aggregate surveillance, as reported by country			
Country	Year	Cases	Data Source
DR Congo	2017	45,165	SITUATION EPIDEMIOLOGIQUE DE LA ROUGEOLE EN RDC, Week of 11/09/2018
	2018	23,979	
Somalia	2017	23,353	Somali EPI/POL Weekly Update Week 36, 2018
	2018	7295	

Notes: Based on data received 2018-09 and covering the period between 2017-08 and 2018-07 - Incidence: Number of cases / population* * 100,000 - * World population prospects, 2017 revision - ** Countries with the highest number of cases for the period - *** Countries with the highest incidence rates (excluding those already listed in the table above)

21. TAKE HOME MESSAGE

- はしかは感染力が強く、合併症をきたすことの多い危険な感染症で、有効な治療が存在しない。ただし、予防接種により予防することができる。
- 1歳未満の乳児に麻疹ワクチンを接種した場合、1歳を超えたところで再度接種をする必要がある。
- 免疫が低下している人、1歳未満の乳児は、はしかの流行地へは極力行かないこと！
(どうしても行く場合は、1歳以降、ワクチン接種後に)

はしかかな？と思ったら

- はしかは非常に感染力が強く、医療機関を受診する際には特殊な隔離が必要になります。

- 医療機関を受診する前に必ず連絡するようにお願いいたします。

- はしかを拡大させないよう、不要・不急の場合は出歩かないようお願いします。